

在ボストン日本国総領事館主催  
**ニューイングランド大学生  
第四回日本語コンテスト**



The Fourth Annual  
Japanese Language Contest for  
New England College Students

Organized by  
The Consulate General of Japan in Boston

2014. 4. 12

ニューイングランド大学生日本語コンテストも今年で四回目を迎えます。当コンテストは、エッセイ部門とスピーチ部門の二部門からなり、ニューイングランド地域で日本語を学習する大学生を対象としています。日本語学習者の皆様に日頃の学習成果の発表の場を提供するとともに、日本についてより一層知って頂くことを目的としています。

今回は、ニューイングランド地域にある大学からエッセイ部門は二十二作品、スピーチ部門には十五作品の参加を得ました。エッセイ部門では、「クールジャパン」「日米関係の将来」をテーマにしたところ、ポケモンカードやトトロなどのアニメから新幹線や納豆まで、クールジャパンと日米関係について、自らの経験等に基づいた様々な視点から、述べられた甲乙つけがたい作品が集まりました。スピーチ部門では、家族のこと、おもしろいやり、演歌、なぜ日本語を学ぶのかなど、様々な内容の原稿が集まり、こちらも原稿を見た限りでは甲乙つけがたく、スピーチが楽しみでなりません。

この中から選ばれたエッセイ部門入賞作品を表彰するとともに、本コンテストについて日本語教育関係者や一般の方々にも知って頂くために本小冊子を作成しました。この小冊子が日本語学習者の刺激となり、次回日本語コンテストにより多くの参加者が得られることを期待したいと思います。

最後になりましたが、ご指導くださった先生方、審査員の方々、賞品をご提供下さいました企業・団体の方々のご協力に厚く御礼申し上げます。

平成二十六年四月

在ボストン日本国総領事

武藤 顕

## 第4回日本語コンテストプログラム

平成26年4月12日(土) 1時より

### 1. 開会の辞

2. 挨拶 在ボストン日本国総領事館総領事 武藤 顕

### 3. 審査員紹介

### 4. スピーチ 中級の部

- |                     |                         |                        |
|---------------------|-------------------------|------------------------|
| (1) Yundi Wang      | Babson College          | 侍と武士道                  |
| (2) Ruochan Gao     | Wellesley College       | ロスト・イン・ナリタ             |
| (3) Kristin Merritt | Northeastern University | 新しい私                   |
| (4) Hui Fan         | UMass Amherst           | 扉                      |
| (5) Dolan Bortner   | Boston College          | 一生の仕事                  |
| (6) Jiamin Tan      | Mount Holyoke College   | 上海焼きそばの謎：<br>私の日本語学習の旅 |

### 5. スピーチ 上級の部

- |                       |                       |                        |
|-----------------------|-----------------------|------------------------|
| (1) Mary Popeo        | Boston College        | 広島から福島へ                |
| (2) Lin Anne Yeung    | Boston University     | 思いやり                   |
| (3) Justin Ehringhaus | Bowdoin College       | 家族                     |
| (4) Eric Fishbach     | UMass Amherst         | クールジャパン -<br>下位文化と上位文化 |
| (5) Amber Seitz       | Boston University     | 演歌一人の心に響く歌             |
| (6) Emily Ting        | Mount Holyoke College | 試験地獄のない<br>『ゆとり教育』への提案 |

### 6. エッセイ部門入賞者への賞状・副賞授与

### 7. スピーチ部門審査講評および結果発表

在ボストン日本国総領事館首席領事 渡邊信之

### 8. 入賞者への賞状・副賞授与

### 9. レセプション

審査員 エッセイ部門

作田 貴志

セイヤー 桂子

平田 雄介

森田 喜代子

渡邊 眞紀

渡邊 信之

審査員 スピーチ部門

赤尾 重人

井熊 康之

グラハム 智子

蔭西 晴子

作田 貴志

渡邊 信之

織田 頼(予選)

河野 越男(予選)

小久保 武(予選)

ホームマン 道子(予選)

山田 理恵(予選)

協力頂いた企業・団体

講談社アメリカ、 香老舗

講談社アメリカ上席副社長  
ボストン日本協会理事  
ハーバード大学日米プログラムアシエイツ (産経新聞記者)  
タフツ大学日本学科日本語講師  
国際交流基金ロサンゼルス日本文化センター専任講師  
在ボストン日本国総領事館首席領事

米国ヤマト運輸

昭和ボストン日本語プログラム担当

ノーブル・アンド・グリーノー・スクール日本語教師

ハーバード大学日米プログラムアシエイツ (朝日新聞記者)

講談社アメリカ上席副社長

在ボストン日本国総領事館首席領事

ハーバード大学元日本語講師

ハーバード大学日米プログラムアシエイツ (読売新聞記者)

マサチューセッツ大学ボストン校元日本語講師

ボストンラテンアカデミー日本語教師

ハーバード大学日米プログラムアシエイツ (朝日新聞記者)

(自校学生以外を審査)

松栄堂、 ボストン・レッドソックス

# エッセイ部門入賞者

## Award Winners

### 中級レベル Intermediate Division

一位 **1<sup>st</sup> Place**

Yilun Chen UMass Amherst

二位 **2<sup>nd</sup> Place**

Xingyi Li Northeastern University

三位 **3<sup>rd</sup> Place**

Dawn Hu Boston College

### 上級レベル Advanced Division

一位 **1<sup>st</sup> Place**

Tianchen Zhou Bowdoin College

二位 **2<sup>nd</sup> Place**

Alexandra Mathieu Bowdoin College

三位 **3<sup>rd</sup> Place**

Xuejun Huang MIT

## 中級レベル 一位

トラディショナルクールからモダンクールへ 陳軼倫

ジャパン、つまり日本という国は外国人にとって神秘的な国というだけではなく、今やクールな国として世界に知られています。この国には古くから伝わっている食文化、和服文化や、新しく起こった二次元文化などがあり、人々はこれらを自分の生活の中に自然に融合させています。

まず、人間にとって一番大切な「食」。日本は島国ですから、魚介類だけでも色々な種類があります。また、その料理方法は様々です。人気の高い刺し身という料理を見てみましょう。魚から直接その身を切り取り、醤油やわさびと一緒に食べるという、食材を生かす日本料理の一つなのです。魚の種類により、また身の厚さにより、味も食感も変わるため、シンプルな料理の中に、作ってくれた人の心が感じられるのです。

次に、「着物」。日本の町中を歩いていると、よくはっとする服装に出会います。それは日本にしかない浴衣という

和服の一つです。伝統的な和服と言えば、着物が代表的ですが、夏になると、子供からお年寄りまで浴衣を着、祭りでは、そういう人々がどこまでも続くそうです。私が初めて浴衣を見た時、その膝丈の斬新なデザインに惹きつけられました。デザインには伝統的な柄からポップな柄まであって、時代の流れを映していたのが印象的でした。

最後に、クールと言えば、日本のアニメ漫画文化も絶対に見過ごしてはいけません。今世界中で流行っているポップカルチャーの一つはこのアニメ漫画文化だと思います。『ワンピース』という漫画がその代表的作品で、驚いたことに、ある調査によると、八割の読者は成人で、噂では、最年長の読者は既に七十六歳なんだそうです。私にとつてのアニメ漫画文化の魅力は、ただ積極的な生き方を教えてくれるのではなく、勇気を持って人間の本性を描いた作者が自分を反省する機会も与えてくれることです。

日本は古と今を融合し、これこそこの国のクールさの在処と言えるんじゃないでしょうか。

## 中級レベル 二位

クールな納豆

リ シンイ

私は日本のアニメや映画や音楽が好きだ。中国には、日本のアニメや音楽が好きな学生がたくさんいる。日本は世界に日本の文化を輸出している。「クールジャパン」の政策のおかげで、今、中国ではいろいろな日本の産物が売られている。特に、日本の食べ物の売上高は近年大きく伸びている。

日本料理は中国ですごく有名だ。日本料理は盛りつけがきれいだし、おいしいし、みんな日本料理を食べたがる。しかし、その中で、納豆という食べ物は例外だ。納豆は体にいい食べものだが、匂いがちよつと強い。子供の時、私は納豆があまり好きじゃなかった。でも、最近、納豆がだんだん好きになって来た。子供の頃、母はいつも私に納豆を食べさせたが、その強い匂いにはなかなか馴染めなかった。私はずつと食べたくなかった。去年日本に行った時、私は偶然納豆の料理を食べた。おいしいお米と海苔と一緒に食べた。

日本米の繊細な食感と納豆の個性的な味に加えて、海苔のいい味わいが絶妙な組み合わせだった。また、大根おろしとあえると、意外に食べやすかった。その時、納豆はいいものだと思った。それから、私は納豆が好きになった。今では、納豆の独特な匂いと粘りがたまらなくおいしいと感じる。

今、中国で、たくさんの方の日本料理のレストランがいろいろな納豆の作り方を考えている。中国で、納豆は日本の象徴みたいである。私は、日本人は納豆みたいだと思う。納豆は他の食べ物と一緒に料理しても、納豆の独特の匂いに変わらない。日本人は、どんな状況でも自分の信念を曲げないという国民性を持っていると思う。そして、最後まであきらめない。この精神は納豆の粘りみたいだ。納豆の粘りはいつも長くて、なかなか切れない。この納豆みたいな国民性は世界中で知られている。クールな納豆、クールなジャパン。

## 中級レベル 三位

古くて新しい国、日本

ドワン フ

子供の時、テレビで日本の「てるてるぼうず」を見ました。期待を持って早速、私も自分のてるてるぼうずを作って、まどの外にかけてみました。次の日はやっぱり晴れになりました。これが初めての私にとっての「クールジャパン」でした。

中学のころから、もっと日本の文化について学び始めました。日本はにぎやかな世界の中で、伝統とイノベーションにあふれる国です。私にとって、日本は東西文化との交差点です。最先端の科学があるけど、日本人は自分達の特別な文化を大切にしてきました。明治維新から日本は近代文明を進みながらも、平安時代の文化も消さずにかけています。日本人は歴史を重んじ、その歴史を誇り、海外に日本文化と伝統を広めてきました。たとえば、着物を着て、おまつりに行くことは世界の女の子の夢です。男の子はラーメンを食べながら、まんがを読むことがクールだと思っています。旅行するのが好きな人は、富士山に登ることを夢

見て、自分に挑戦することが好きな人は、空手や柔道で心身をきたえます。そして、もっとさらに「クールジャパン」に憧れる人は日本語を学び、いつか日本へ行って、自分の目で日本の文化を見ようと思います。

伝統だけではありません。日本からの電気製品も世界一です。世界中の人々はみんな日本のカメラやパソコンを使います。そして日本製品の品質は高いと思われています。日本の車も海外で人気があります。たとえばアメリカでも、アメリカ人は他の車より、日本の車を選びます。人々は日本人の技術力と日本製品を信じているからです。日本は世界から注目されています。私にとっても日本はずっと大切な国でした。

私は本当に日本が「クールジャパン」と思うので、今この日本についてのエッセイを書いているのです。そのすばらしい国の言語と文化を勉強できるのはとても幸せです。だから、もっとがんばって、将来、日本のことを世界中の人々に話してあげようと思っています。

## 上級レベル 一位

クール・ジャパン

周天宸

私が日本に住んだ一年間の中で、最も強い印象を受けたのは、日本人が「足るを知る」という禅の生活哲学を守っていることだ。これが私にとってのクール・ジャパンだ。

「日本式ラーメン」の大ファンの私は、日本でたくさんのラーメン屋に行った。最愛の店は「満来」という所だ。とても美味しくて、サイズも大きい。それに、いつも込んでいる。しかし、この店には十五席しかない。その上、毎日八時間しか営業しないし、日曜日も休む。このラーメン屋の店主はお金を稼ぐのが嫌いなのではないだろうか。「満来」の香りが高くて、濃厚な豚骨スープを飲みながら、私は考えてしまった。

北京やニューヨークに支店を設立するとまでは言わなくても、もし、規模を少し拡大し、営業時間を毎日何時間か延長したら、収入がもっと増えるのに、なぜお店を拡大しないのか、本当に知りたかった。満来に何度も食べに行くうち、ついに、店主のお爺さんに聞いてしまった。お爺さん

は笑いながら、「そんなことしたら、自分たちの生活がなくなるわさ。この寸胴鍋で一日に作れるスープの量も決まってるわさ」と答えてくれた。

私は本当にびっくりした。つまり、お金を儲けることよりも、今の幸せな生活の方を選ぶと言うのだ。お爺さんの幸せは、毎日寸胴鍋一杯のスープを心を込めて作ることなのだ。お客さんの満足の笑顔は、お爺さんにとって、お金では買えないものだ。自分が知っているほとんどの中国人や米国人にとって、この「寸胴の小ささ」は、商売を大きくしない理由としては、完全に馬鹿げているだろう。しかし、自分の生活を守って幸せになろうとする日本人達にとっては、大切な理由になってしまった。

ドイツの哲学者カントは自身の欲望を抑制できない人間は自由を完全に得られないと言った。日本人の「足るを知る」という生活哲学はこれと似ている。これは本当に「クール」だと思う。

## 上級レベル 二位

クールジャパン アレクサンドラ・マシユー

子供の頃、私は祖母と一緒の部屋だった。そのおかげで、私は年寄りになった時の気持ちと考え方が分かると言える。祖母は大切にされていたが、あまり外にでる機会がなかったので時々寂しそうだっただけ。外で他の人に会って話が出来ればいいのに思った。去年、日本に留学した時、お年寄りが多いのを見て、祖母のことを思い出した。日本の社会がどうやってお年寄りを満足させているかに興味を持つようになった。

留学中に、日本のコンビニでは多くのことができることを知った。アメリカのコンビニに比べて、日本のコンビニは本当に便利だと思った。ものすごく便利なので、コンビニにはいつも人がいて、近所の人たちのために、とても大切なものになっていることに気がついた。たくさん人はコンビニのサービスを使うから、便利だけでなく、いろいろな人に会える場所だと思った。

しばらくすると、私は、ローソンやサークルKなどのコンビニが、お年寄りのために店を変えていこうとしているということを知った。どちら店でも新鮮な農作物が買える。2006年から、ローソンでは棚を低くしたり、値段の文字を大きくしたり、踏み台をつけたりし始めた。そして、薬屋を作ったりもしている。サークルKでは、店の中に座って、他の人と話すことができる所を作る予定だそうだ。お年寄りが、少しでもコミュニティに参加できるようにというアイデアだ。私はこれを聞いて、嬉しくなった。人口の高齢化の問題の解決方法を見つけるのは、時間がかかるだろうが、今すぐお年寄りのために何かをするべきだ。日本のコンビニは若者のためだけでなく、お年寄りも参加してもらえるスペースを考えている。すでに持っているリソースの使用を通して、お年寄りにとって、近所がより良い場所になるように頑張っている。私は、これが「クールジャパン」だと思う。私の祖母にも、こんなコンビニがあればいいのと思う。

## 上級レベル 三位

日米関係の将来を決める選択とは 黄学駿

日本の友人との会話の中で、度々日米関係がトピックとして挙げられる。その中でも、「軍事」に関しては、アメリカに頼ればよく、日本は経済発展により力を注ぐべきだという意見をよく耳にする。「軍事」と言うのと、一般の人は、武器の製造、軍隊、戦争などといったとても悪いイメージを持っているだろう。私も渡米前はそう思っていたが、渡米後の私は「軍事」という単語の意味に新しい認識を持った。三二での研究経費の約三分の一は軍隊に依るもので、軍隊が最先端の研究を支えているのだ。パソコン、インターネット、新材料、生物製剤などといった重要産業からも分かるように、それらの技術の起源は軍事と密接に関係している。初めに軍隊から資金を集め、新産業を成長させ、その規模が大きくなるにつれ、私有化する。アメリカはこの過程を得て、幾つもの重要産業の生みの親となったのである。従って、軍事が現代経済の発展の柱と

なっている。

過去消えた十年間、日本の市場は萎縮し続けている。紡織業や家庭用電気製品業といった軽工業に関して中国やインドのような新興経済国が、そして重工業と軍事産業に関してはアメリカが押さえている。従って、日本経済を改善するには先端技術の発展が不可欠であり、これが日本政府の軍事的独立を目指すきっかけとなったと予測できる。しかし、アメリカはこの独立を望まない。アメリカは軍事的援助を通して利益を得るとともに、日本の軍事的技術開発を抑制してきた。日本には二つの選択がある。アメリカに反抗して軍事と経済の主動権をとることと、反抗せずに他の経済成長の方法を求めることだ。どちらの道も決して容易なものではない。日米関係の将来もこの選択に委ねられており、日本にとって、今は一番大切な時期である。果たして日米関係の今後の行方は如何なるものになるのか、興味深いものである。

在ボストン日本国総領事館主催

## 第五回日本語コンテストのお知らせ

日にち… 二〇一五年四月ごろ

場所… グレーターボストン地域

部門… エッセイコンテスト

中級・上級

スピーチコンテスト

中級・上級

次回日本語コンテストは、今年度同様に、スピーチ部門、エッセイ部門に分けて行う予定です。詳しくは追って在ボストン日本国総領事館ホームページ等でご案内いたします。

皆様のご参加をお待ちしております。

対象… ニューイングランドの大学に在籍している大学生（大学院生も含む）

お問い合わせ先…

在ボストン日本国総領事館 大津賀

[infocul@bz.mofa.go.jp](mailto:infocul@bz.mofa.go.jp)